

外為マンスリーレビューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2016/05/02

円への仕掛け的な売買に要注意

通貨ペア	基調		ページ数
<a href="#">豪ドル/円</a>	➡	RBAの決定は？ 予想レンジ: 76.000 ~ 85.000 円	2 - 3
<a href="#">NZドル/円</a>	➡	6月の利下げの可能性を模索 予想レンジ: 71.000 ~ 78.000 円	4 - 5
<a href="#">ランド/円</a>	➡	上値の重さ払拭には高いハードル 予想レンジ: 7.000 ~ 7.800 円	6 - 7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

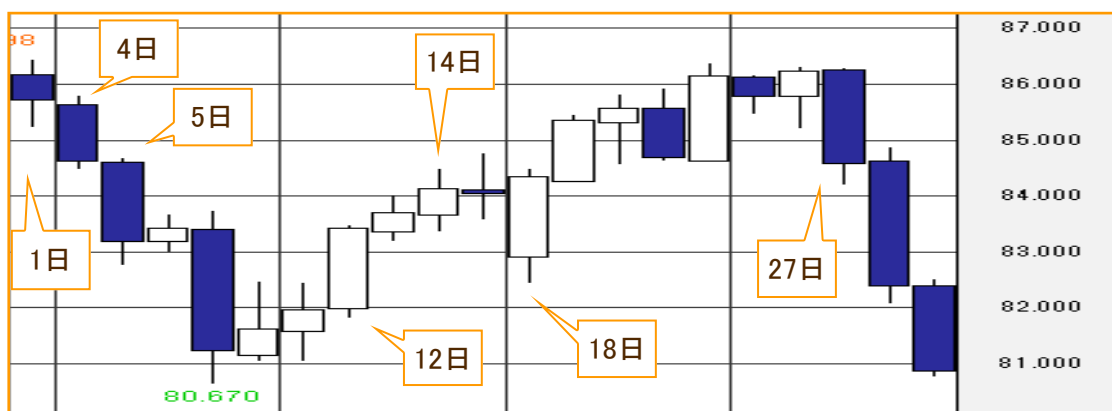
Copyright©2016 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

## 豪ドル/円 4月の推移

AUD/JPY

4月の豪ドル/円相場は80.670～86.452円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約6.2%の下落(豪ドル安・円高)となった。

月初、17日開催予定の産油国の石油増産量凍結協議に向けて原油価格が下げた事などを背景に豪ドル/円は値を下げ、7日には80.670円の安値を付けた。しかし、次第に産油国会合について、懸念であったイランの出席なしでも合意できるとの楽観論が浮上し、NY原油が上昇した事を受け、豪ドル/円は反発した。17日の会合ではそうした期待に反して合意に至らなかったものの、原油価格の底堅さを眺めて上昇。22日には一部報道で、複数の関係筋の話として「日銀は金融機関への貸し出しにマイナス金利適用を検討」などと報じられた事を受けた円安もあって、86円台を回復した。もっとも、27日の豪1-3月期消費者物価指数の弱い結果によって豪中銀(RBA)の利下げ観測を絡めて豪ドル/円は失速。さらに28日に日銀が市場の緩和期待に反して政策据え置きとすると、一段と値を下げた。



## 四本値

OPEN	86.181
HIGH	86.452
LOW	80.670
CLOSE	80.892

1日	日銀短観の悪化を受けて日経平均が下落する中、豪ドル/円は軟調に推移。さらに、欧州市場に入り、サウジアラビアの副皇太子が「増産凍結はイラン次第」「イランを含む主要産油国が増産凍結に参加しなければ、サウジも加わらない」などと発言し、NY原油が下げた事が重石となった上、米3月雇用統計が好結果と受け止められ、豪ドル/米ドルで豪ドル安・米ドル高が進むと、豪ドル/円も豪ドル売りが優勢となった。
4日	日経平均が冴えない動きだった上、豪2月小売売上高が前月比±0.0%と予想(+0.4%)より弱かった事から豪ドル/円は下落。さらにイランのザンギャネ石油相が石油生産や輸出を拡大する意向を示し、NY原油が下げると、下値を切り下げた。
5日	豪中銀(RBA)は大方の予想通り、政策金利の据え置きを発表した。声明文では「低い政策金利は需要をサポートしている」「豪ドル上昇が経済の調整を複雑化させる可能性」「経済成長の持続を予想する妥当な展望ある」「緩和的な政策が適切」「豪ドルは最近、幾分上昇した」「低インフレが続けば緩和の余地」とした。また「経済成長の持続を予想する妥当な展望ある」などと楽観的な見方を示し、追加緩和について踏み込んだ示唆が無かったため、発表直後の豪ドル/円は上昇した。ただし、その後は円買い圧力が強く、失速。さらに米紙WSJが安倍首相のインタビューとして「競争的な通貨安は避けなければならない」などと伝えた事を受けて円売り介入期待が後退し円高が進むと、82.798円まで下値を切り下げた。
12日	麻生財務相の「市場では通貨安誘導的な為替介入はできないとの思惑があるが、急激な変動を抑制するスミージング・オペレーションは為替操作には当たらない」との発言を背景とする円安の影響で、豪ドル/円は上昇。NY市場に入ると、一部通信社が「サウジアラビアとロシアは増産凍結で合意に達する」と報じた事や、ロシア政府当局者の発言として「イランに関わらず、ドーハ合意に希望はある」と伝えられた事を受けてNY原油が上昇し、これも豪ドル/円の追い風となった。
14日	豪3月雇用統計は、失業率が5.7%、就業者数は2.61万人増と予想(5.9%、1.70万人増)より強い結果であった事を受け、豪ドル/円は一時上昇するも反応は一時的。ただし欧州市場に入るとじり高となり、米経済指標の弱い結果を受けて豪ドル/米ドルが上昇すると84.491円まで連れ高した。
18日	15日のG20財務相・中銀総裁会議後、ルー米財務長官が「最近の円高にも関わらず為替市場は穏やか」として、日本が円売り介入などを行って為替市場に波風を立てる事を暗に牽制する発言をし、円は全面的に上昇。また、17日の産油国会合で増産凍結が合意できず、週明けのNY原油先物が急落して始まった事も豪ドル/円には重石となった。ただ、欧州市場以降、NY原油が次第に切り返した事から、豪ドル/円も反発した。
27日	豪1-3月期消費者物価指数が前期比-0.2%(予想:+0.2%)、前年比+1.3%(同:+1.7%)、基調インフレ率が前年比+1.55%(同:+1.95%)と予想外に弱い結果となり、豪ドルはRBAの追加利下げの思惑を絡めつつ下落した。

AUD/JPY

## 日経平均

OPEN	16719.56
HIGH	17613.56
LOW	15471.80
CLOSE	16666.05

## NYダウ平均

OPEN	17661.74
HIGH	18167.63
LOW	17484.23
CLOSE	17773.64

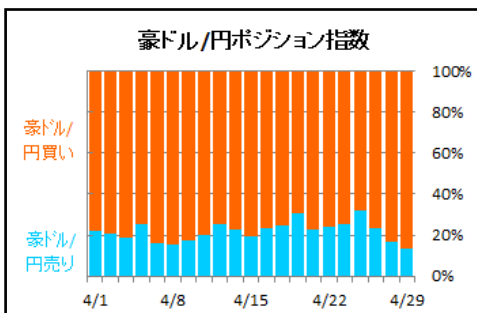
## 上海総合指数

OPEN	2997.088
HIGH	3097.165
LOW	2905.049
CLOSE	2938.323

## 豪10年債利回

OPEN	2.479%
HIGH	2.702%
LOW	2.388%
CLOSE	2.517%

## 4月のポジション動向



## 5月の豪州・中国の注目イベント

- ・4月中国財新製造業PMI(3日)
- ・RBAキャシュターゲット(3日)
- ・3月豪小売売上高(5日)
- ・3月豪貿易収支(5日)
- ・4月中国貿易収支(8日)
- ・4月中国消費者物価指数(10日)
- ・4月中国鉱工業生産(14日)
- ・4月中国小売売上高(14日)
- ・RBA議事録(17日)
- ・4月豪雇用統計(19日)
- ・スティーブンスRBA総裁講演(24日)

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

## 5月の見通し

4月27日に発表された豪州の1-3月期消費者物価指数が市場予想に反して前期比でマイナスとなったことから、市場では3日にRBAが利下げを発表すると見る関係者が急増している。まず、この結果が注目されよう。利下げとなれば据え置きを見ていた向きの豪ドル売り、据え置きとなれば利下げを見ていた向きよる豪ドル買いとなると見る。RBAの決定を受けた初動の動きが一服した後は、声明文の内容に注目が集まる。近い将来の利下げを示唆すれば豪ドル売り優勢に、当面金融政策据え置きの方針を示せば豪ドル買い優勢となる。

月初のRBA絡みの動きが一巡した後は、円に対する仕掛的な動きと政府・日銀の対応や姿勢、そして株・原油の動きを眺めながらの値動きに戻るものと見る。特に、日本については、米国からの批判に加え、26-27日の伊勢志摩サミットを控えている事もあり、「円売り介入は困難」と見て円を仕掛的に買う動きが出る可能性は十分にある。そうなれば、豪ドル/円には下押し要因となる。ただ、麻生財務相など本邦要人からは「必要に応じて適切な対応の準備を整えている」などの発言が出てきており、円高の流れが速まれば速まるほど、円売り介入警戒感が高まる公算だ。レートチェックなどの「噂」でも円が急落し、豪ドル/円が急反発する事も警戒しながらの取引が必要だろう。

また、原油については、引き続き生産量の見通しに関わる各国報道や、在庫の動向などを眺めて方向感を模索する状態が続くと見られる。引き続き原油の動向は豪ドル/円相場を取引する上でも非常に重要と言え、原油相場が動ききっかけとなりそうな報道にも即座に対応できるよう、心の準備しておく事が肝要と言えそうだ。(石川)

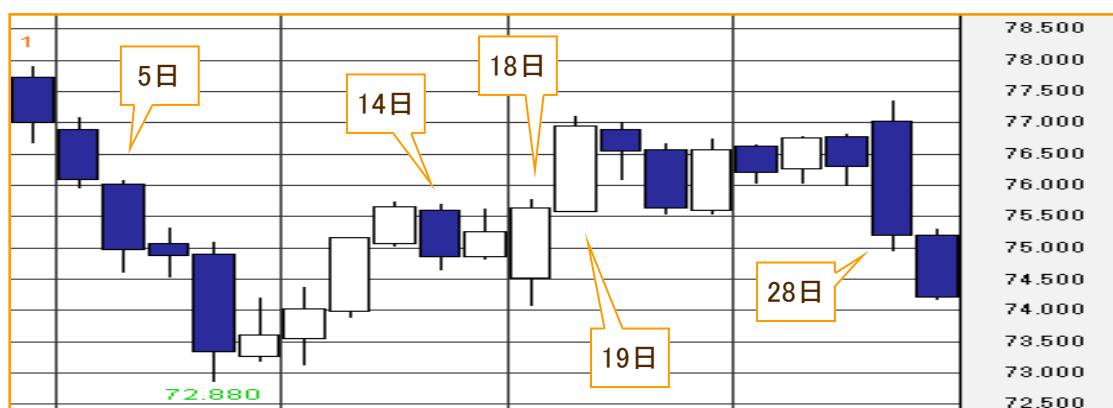
(予想レンジ: 76.000~85.000円)

## NZドル/円 4月の推移

NZD/JPY

4月のNZドル/円相場は72.880～77.902円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約4.6%の下落（NZドル安・円高）となった。

月初のNZドル/円は原油安を背景とするリスクオフムードや、仕掛け的な円買いなどを受けて下げ、72.880円まで一時値を下げた。その後は原油価格の戻りとともに値を戻したが、一部に根強いNZ中銀の利下げ期待もあり、77円台では上値が重い状態。NZ中銀が27日に政策金利の据え置きを発表すると77.368円まで一時上昇したが、日銀の金融政策据え置きを受けた円買いに引っ張られ、失速した。



## 四本値

OPEN	77.738
HIGH	77.902
LOW	72.880
CLOSE	74.222

5日	早朝に発表されたNZ1-3月期NZIER企業信頼感が2と、前回(15)から大幅に弱い結果となったことから、NZドルは下落。さらに主要国株が下落し、円買いが優勢となる中で下値を切り下げた。ただし、NZ乳業大手フォンテラの電子入札GDTの物価指数が前回比+2.1%となった事を受け、一時的に上昇する場面も見られた。
14日	NZ中銀の3月会合前に情報漏えいがあったとして、記者向けの事前説明をやめるとの発表があった点が一部重石となり、下落した。
18日	15日のG20後にルー米財務長官が「最近の円高にも関わらず、為替市場は穏やか」として、日本が介入などを行って為替市場に波風を立てる事を暗に牽制する発言をした事が円高に作用した上、17日の産油国会合で増産凍結が合意できなかった失望感からNY原油先物が急落して始まった事を背景にNZドル/円は下落。ただし、NZ1-3月消費者物価指数が前年比は+0.4%と予想通りだったものの、前期比が+0.2%と予想(+0.1%)を上回った事が下支え要因となった。欧州市場以降はクウェートの石油労働者による無期限スト発生を受けたNY原油の戻りとともにNZドル/円は上昇した。
19日	欧米株の上昇を受けた日本株の上昇期待で朝からNZドル/円は上昇。クウェートの石油労働者スト継続を受けたNY原油上昇がリスクオンムードに拍車を掛けた他、フォンテラの電子入札GDTの物価指数が前回比+3.8%もの上昇となった事もNZドル/円の追い風となった。
28日	未明にRBNZが政策金利の据え置きを発表。声明では「さらなる追加緩和が必要となる可能性がある」「低い商品輸出価格を考慮すれば、為替レートは適切な水準より高いままだ」「交易財のインフレを促進し、公益セクターを支援するために、より低いNZドルが望ましい」などとした。一部に利下げ予想があった反動で、発表直後のNZドルは窓を開けて上昇。しかし、その後に日銀が金融政策の据え置きを発表すると、追加緩和期待が高かった反動で急激に円高が進行。NZドル/円は大きく値を下げた。

## NZD/JPY

## 日経平均

OPEN	16719.56
HIGH	17613.56
LOW	15471.80
CLOSE	16666.05

## NYダウ平均

OPEN	17661.74
HIGH	18167.63
LOW	17484.23
CLOSE	17773.64

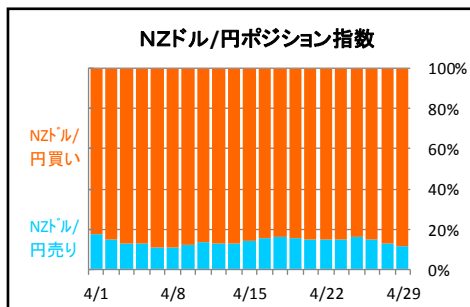
## 上海総合指数

OPEN	2997.088
HIGH	3097.165
LOW	2905.049
CLOSE	2938.323

## NZ10年債利回

OPEN	2.923%
HIGH	2.942%
LOW	2.804%
CLOSE	2.850%

## 4月のポジション動向



## 5月のNZの注目イベント

- ・NZフォンテラ入札(3日、17日)
- ・1-3月期NZ失業率(4日)
- ・1-3月期NZ小売売上高(13日)
- ・ウィーラーRBNZ総裁講演(18日)
- ・1-3月期NZ生産者物価指数(18日)
- ・4月NZ貿易収支(25日)
- ・NZ年間予算発表(26日)
- ・4月NZ住宅建設許可(31日)

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

## 5月の見通し

NZ中銀は追加緩和を匂わせつつも、4月の会合では利下げを見送った。住宅市場の過熱感を押さえる必要が依然ある事、そして4月に行われたNZ乳業大手フォンテラの電子入札GDTの物価指数は、2回とも前回比で上昇していた事、理事会時点では金融市場全般的に落ち着きが見られた事もあり、喫緊の利下げが必要ではなくなったと考えられる。

5月はNZ中銀の会合予定がなく、NZドル相場はNZの各指標結果を確認しつつ、6月の利下げの可能性を模索していく流れとなる。また、日本円主導の相場になる可能性もあり、本邦や米国などの要人発言にも引き続き警戒が必要であろう。麻生財務相は「急激な円高は明らかに偏った投機的な動きで、極めて憂慮している」「必要に応じて適切な対応の準備を整えている」などと発言しており、円高が進むに伴って円売り介入に対する警戒感が強まっているが、米国からの反発が強い他、伊勢志摩サミットを5月26・27日に控えて、実際に介入を行うのは難しいとの見方も根強い。まずは円が一段と上昇する事を警戒すべからう。仕掛け的な動きを絡めて円買いに拍車が掛ければ、NZドル/円は急落する事もあり得る。ただし、本邦要人らの発言がより強い表現になって行けば、円売り介入警戒観から下値を固める動きになるだろう。レートチェックなどによる円急落なども合わせて警戒が必要だ。(石川)

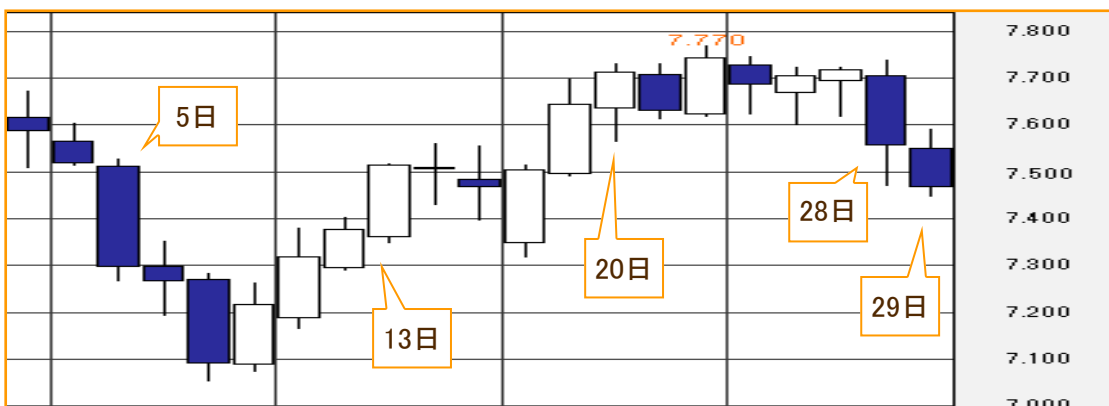
(予想レンジ: 71.000~78.000円)

## ランド/円 4月の推移

# ZAR/JPY

4月のランド/円相場は7.055~7.770円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約1.9%の下落(ランド安・円高)の推移となった。

月初は原油価格の下落や仕掛け的な円買いが入り、ランド/円は下落。この間、南アフリカのズマ大統領が公金を流用して私邸を改修し、その資金を国庫に返済していない件に関し、野党が弾劾を求めたものの、5日に反対多数で否決。しかし、これが却って政局の先行き不透明感を煽った点もランドの重石となった模様。中盤にかけて原油価格の反発とともにリスクオンムードが漂い、円売り主導でランド/円は上昇したが、7.70円台後半では頭を押さえられ、28日に日銀が金融政策を据え置くと、事前の追加緩和期待の反動による円買いによって反落。月間としては小幅安で終わった。



### 四本値

OPEN	7.618
HIGH	7.770
LOW	7.055
CLOSE	7.469

5日	ミネレ南ア中銀(SARB)副総裁は「南アフリカの信用格付けの引き下げリスクが増している」「短期的なランド相場の動向をみる事が重要」などと述べた。
13日	アジア市場中は株高、NY市場では原油高を手掛かりに、円売り優勢となる中でランド/円は上昇した。しかし、米紙WSJが安倍首相のインタビューとして「競争的な通貨安は避けなければならない」などと伝えた事を受けて日本の円売り介入期待が後退し円高が進むと、ランド/円は失速した。なお、南ア2月小売売上高は前月比+0.5%と予想(+0.3%)を上回ったものの、前月分が下方修正(-0.3%→-0.7%)された。これを受けたランド/円の動きは限定的だった。
20日	南ア2月消費者物価指数は前年比+6.3%と(予想:+6.4%)、コア前年比は+5.4%(同:+5.8%)と、予想を下回ったが、南アランドの反応は限定的だった。
28日	日銀が金融政策の据え置きを発表すると、追加緩和期待が高かった反動で急激に円高が進行。ランド/円は大きく値を下げた。
29日	南ア3月貿易収支は29億ランドの黒字と予想(19億ランドの赤字)外の好結果だった。この発表後、ランド/円はジリ高となり、7.593円まで一時上昇した。ただ、その後は週末前の利食い売りや、米国の半期外国為替報告書の監視リストに日本が載った事で日本が円売り介入しづらくなったと受け止められて円高が進んだ煽りで、ランド/円は下落した。

## 日経平均

OPEN	16719.56
HIGH	17613.56
LOW	15471.80
CLOSE	16666.05

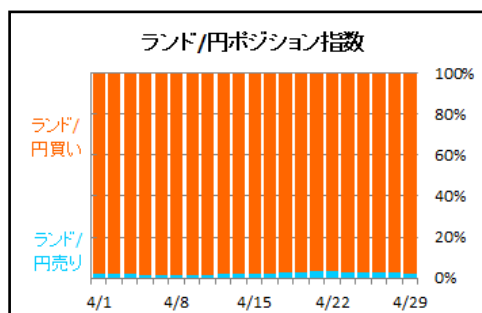
## NYダウ平均

OPEN	17661.74
HIGH	18167.63
LOW	17484.23
CLOSE	17773.64

## N Y 金

OPEN	1234.10
HIGH	1299.00
LOW	1210.30
CLOSE	1290.50

## 4月のポジション動向



## 5月の南アフリカの注目イベント

- ・4月南ア消費者物価指数(18日)
- ・3月南ア小売売上高(18日)
- ・SARB政策金利(19日)
- ・4月南ア生産者物価指数(26日)
- ・4月南ア貿易収支(31日)

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

## 5月の見通し

4月中も南アランド相場はほとんど外部要因によって動いた。ただし、南アフリカについては政局不透明感や信用不安というネガティブな要素が付きまとう。格下げ懸念は根強く、ひとたび市場がリスクオフモードに切り替われば真っ先に売られる通貨であると言えるだろう。仕掛け的な円買いによる下振れリスクも増しており、まずは下振れを警戒したいところ。ただし、もちろんリスクオンモードの時は円に対してランド高が進むと考えられる。4月22日にクガニャゴSARB総裁は「世界的なセンチメントの好転は南アフリカにとって利益になる」と述べており、追い風が吹けば3月のような堅調な推移となる可能性も残る。しかし、そうした際の上昇幅は、他の新興国・資源国通貨と比べると控えめなものに留まると見る。今年の上値抵抗となっている7.77円よりも上の水準まで値を伸ばすには、継続的なリスクオンモードが市場に漂う必要があるだろう。(石川)

(予想レンジ: 7.000~7.800円)